**タイトル（12ポイント・MS明朝・太字）**

**Title (12 point・Century・Bold)**

関大太郎（関西大学教育推進部）（11ポイント・MS明朝）

吹田花子（山手町大学教育学部）

Taro Kandai (Kansai University, Division for Promotion of Educational Development)

Hanako Suita (Yamatecho University, Faculty of Education) (11 point・Century)

**要旨（10.5ポイント・MS明朝・要旨タイトル太字）**

　要旨（Abstract）は「論文」と「研究ノート」カテゴリで投稿する場合、ご記載ください。要旨（Abstract）の分量は、本文が和文の場合は日本語400字以内、英文の場合は英語200words以内とします。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

**キーワード　全カテゴリ、必要、3～5語、10.5ポイント、太字 ／ All Categories, Necessary, 3-5 words, 10.5 point, Bold**

**1.　見出し（10.5ポイント・MS明朝・太字）**

1行22字、1ページ40行の2段組みフォーマットとなります。サイズはA4判、余白は上下左右ともに25ｍｍで作成してください。

本文日本語は「10.5ポイント・MS明朝」、英数字は「10.5 point・Century」でご記載ください。

**1.1.　句読点について**

句読点は「、」「。」を用いてください。

**1.2.　図表について**

　図表には連番を付し、簡潔な見出しをつけてください。本文末尾にまとめないでください。

図表の幅は1段または2段とし、両脇の余白ができても文字を入れないでください。

幅2段分の図表の場合、ページの上部または下部に入れ、本文が1段目から2段目へ流れやすく整えてください。

図表の前後には空白行を1行ずつ設けてください。

表の表題は表の上部に、図の表題は図の下部に記してください。以下は、図の挿入例です1。



図1　図表の挿入例

**2.　その他**

**2.1.　本文中の参考文献引用について**

　本文における参考文献は、和文表記では（著者名、刊行年）、英文表記では（著者名, 刊行年）のように表示してください。複数の参考文献を同じ箇所に表示する場合は、「（山手、2013；垂水、2015）」としてください。著者が2名の場合は「関大・吹田（2019）は…」「Michael ＆ Mike （2019）」とし、3名以上の場合は「関大他（2019）は…」「Michael et al.（2019）…」としてください。同一著者の同一刊行年の異なる文献を引用する場合は、刊行年の後にアルファベットを付して区別してください。例：2006a, 2006b, …

**2.2.　註、参考文献、謝辞について**

　註・参考文献・謝辞は本文末尾に一括して記載してください2。

　参考文献は、「註」の後に著者名のアルファベット順で記載してください。

　一文献あたり2行以上になる場合は、1文字ぶら下げインデントを設定する。

詳細は別紙「参考文献表記について」よりご確認ください。

**註**

1 図表番号の記載方法に指定はありません。和文は「図1」「表1」、英文は「figure 1」「Table 1」など、本文の語種に合わせてご記載ください。

2 本文中での「註」の指示は、上付きの連番で示す。また、「註」には括弧は付けないでください。

**参考文献**

Association for Teaching and Learning. (2012). *Designing an Inclusive Classroom*, (http://www.atl.edu.us/xxx/xxxx/xxxx.12345.htm), (2019.5.20).

Brooks, A., & Ball, C. (2001). *Designing learning environment (Expanded 3rd ed.)*, San Diego, CA: Uni Press. A・ブルックス，C・ボール 関西文子訳 (2005)『学習環境デザイン』吹田山手出版.

Chin, A. J., & Gray, E. (2012). Communication skills: an active learning approach. *Journal of College Students*, 15(2), 28-50.

Johnson, A., McAdams, G., & Pawling, A. (2005). Creating inclusive classroom. In P. M. Simpson, & K. A. Tanaka (Eds.), *Internationalization of higher education*, pp.56-82. New York: Uni Press.

関大太郎 （2003）『関西大学における初年次教育の課題』 関西大学出版部.

凜風桜子（2010）「高大接続と初年次教育」『高等教育開発ジャーナル』12(1), 100-117.

Smith, T. (2007). *Modern Higher Education and Society*, Los Angeles, CA: UNIV Press.

吹田花子（2016）「大学が社会に果たす役割」 関大太郎・山手次郎編著 『大学教育改革』, pp.63-86.関西大学出版部.

山手市教育審議会（2010）『個人情報保護に係る指針』(http://www.suita.edu.jp/xxx/xxxx/xxxx.12345.htm) (2019年5月20日)

**謝辞**

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇